

公益財団法人図書館振興財団

第17回 子どもの本 この1年を振り返って 2016年 ブックリスト

■絵本の部■

日本子どもの本研究会 絵本研究部 鈴木 佳代子

<2016年 絵本の動向>

□はじめに

文章を楽しめる力が育つよう、ストーリーの面白さで、物語世界へ誘い込み、読ませてくれる作品を子どもたちにとどけたい……！

* 幅広く楽しめるお話が少ない。

- ・子どもの発達段階に配慮しているのだろうか
- ・日常の生活場面が楽しく描かれているだろうか

* フィクションとノンフィクションの融合が絵本でも進んで手応えと面白さがある。

* 伝記絵本や環境問題など、事実を伝えていこうとする絵本のジャンルが定着してきている。

* 作り手の気持ちや、画家先行の絵本が多くなっている。

- ・子どもに作者の意図が理解しにくくなっていないか、大人向き？といった絵本が増えている。

* 生活様式の変化や価値観の変化に、絵本を利用して経験や理解を援助する。

■物語や昔話を楽しんで

- ・お話の展開を楽しむ
- ・幼い子どもたちに
- ・大人も楽しんで

■自然・生活など知ることで豊かさを

■起こっている変化を見つめ、事実を積み重ねていく

■文化の交流で広がる理解と感性

■生き方を知る

□絵本が読み物や美術作品をつないで

□東日本大震災を忘れない

■戦後を続けていくために

■生きているものへの思い育てて

■物語や昔話の絵本

<お話の展開を楽しんで>

★	初級	『くいしんぼうシマウマ 新装版』/ムウニエ・ハディシ・文, アドリエンヌ・ケナウェイ・絵, 草山 万兔・訳/西村書店/2016. 3/¥1300/(絵本)
★	中級	『どうしてカは耳のそばでぶんぶんいうの? 西アフリカの民話より』/ヴェルナ・アールデマ・ぶん, レオ・ディロン・え, ダイアン・ディロン・え, さがの やよい・やく/童話館出版/2016. 8(「どうしてカはみみのそばでぶんぶんいうの?」(ほるぷ出版 1976年刊)の改題,新訳)/¥1400/(絵本)
★	初級	『ひまなこなべ アイヌのむかしばなし』/萱野 茂・文, どい かや・絵/あすなろ書房/2016. 8/¥1400/(絵本)
★	初級	『なつめやしのおむこさん』/市川 里美・作/BL出版/2016. 8/¥1400/(絵本)
	初級	『りゅうおうさまのたからもの』(世界傑作絵本シリーズ)/イチンノロブ・ガンバートル・文, バーサンスレン・ポロルマー・絵, 津田 紀子・訳/福音館書店/2016. 9/¥1400/(絵本)
★	初級	『パン屋のイーストン』/巢山 ひろみ・文, 佐竹 美保・絵/出版ワークス/2016. 10/¥1400/(絵本)
★	初級	『カイとカイサのぼうけん』(世界傑作絵本シリーズ)/エルサ・ベスコフさく・え, まつむら ゆうこ・やく/福音館書店/2016. 11/¥1300/(絵本)
★	初級	『ぼくはイスです』/長 新太・さく/亜紀書房/2016. 10(童心社1979年初版「新ユーモア絵本」として)/¥1300/(絵本)
	初級	『かぜ』/イブ・スパンク・オルセン・さく, ひだに れいこ・やく/亜紀書房/2016. 11(文化出版局1980年初版 木村由利子訳)/¥1300/(絵本)
★	初級	『一日だけうさぎ』/原 知子・ぶん, こば ようこ・え/くもん出版/2016. 11/¥1200/(絵本)
	初級	『人形の家にすんでいたネズミー家のおはなし』/マイケル・ボンド・文, エミリー・サットン・絵, 早川 敦子・訳/徳間書店/2016. 11/¥1500/(絵本)
★	初級	『わたし、お月さま』/青山 七恵・文, 刀根 里衣・絵/NHK出版/2016. 11/¥1600/(絵本)
	初級	『シラユキさんとあみあみモンスター』/アンネマリー・ファン・ハーリンゲン・作, 野坂 悦子・訳/BL出版/2016. 11/¥1400/(絵本)
	初級	『へんてこだより ニルゲンツものがたり』/齊藤 洋・作, 杉浦 範茂・絵/小峰書店/2016. 12/¥1400/(絵本)
	初級	『ソフィアのもっともすてきなぼうし』/ミシェル・エドワーズ・文, G.ブライアン・カラス・絵, 石津 ちひろ・訳/BL出版/2016. 12/¥1400/(絵本)

<幼い子どもたちに>

	幼児	『ダンゴムシのコロリンコくん』/カズコ・G.ストーン文・絵/岩波書店/2016. 1/¥1400/(絵本)
★	幼児	『ぞうさん』/まど みちお詩, にしまき かやこ・絵/こぐま社/2016. 3/¥900/(絵本)
★	幼児	『ねこどけい』(こどものとも絵本)/きしだ えりこ・さく, やまわき ゆりこ・え/福音館書店/2016. 4/¥900/(絵本)
★	幼児	『ちょう いきいきいきもの』/いまもり みつひこ・著/アリス館/2016. 4/¥1300/(絵本)

	幼児	『まだかなまだかな』(はじめてえほん)/竹下 文子・作, えがしら みちこ・絵/ポプラ社/2016. 4/¥980/(絵本)
★	幼児	『すずめくんどどこでごはんたべるの? マルシャークの詩より』(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)/たしろ ちさと・ぶん・え/福音館書店/2016. 5/¥900/(絵本)
★	幼児	『ぞうきばやしのすもうたいかい』(幼児絵本シリーズ)/広野 多珂子・作, 廣野 研一・絵/福音館書店/2016. 6/¥900/(絵本)
★	幼児	『まどべにならんだ五つのおもちゃ』/ケビン・ヘンクス作・絵, 松井 るり子・訳/徳間書店/2016. 9/¥1600/(絵本)
	初級	『つきよの3びき』(童心社のおはなしえほん)/たかどの ほうこ・作, 岡本 順・絵/童心社/2016. 9/¥1300/(絵本)
★	幼児	『ふくろうおやこ おやここうもり』/マリー＝ルイズ・フィッツパトリック・作/BL出版/2016. 9/¥1300/(絵本)
★	幼児	『だるまちゃんとおうちちゃん』(こどものとも絵本)/加古 里子・さく・え/福音館書店/2016. 12/¥900/(絵本)

<大人も楽しんでほしいかな>

	初級	『ねこがおおきくなりすぎた』/ハンス・トラクスラー作・絵, 杉山 香織・訳/徳間書店/2016. 5/¥1600/(絵本)
	初級	『ネコツメのよる』/町田 尚子・作/WAVE出版/2016. 5/¥1400/(絵本)

■自然・生活など知ることによって豊かさを…

★	中級	『築地市場 絵でみる魚市場の一日』(絵本地球ライブラリー)/モリナガ ヨウ・作・絵/小峰書店/2015. 12/¥1500/(675. 5)
	中級	『文房具のやすみじかん』/土橋 正・文, 小池 壮太・絵/福音館書店/2016. 1/¥1300/(絵本)
★	初級	『くだものいっぱい! おいしいジャム』(しぜんにタッチ!)/石澤 清美・監修・料理, 田村 孝介・写真/ひさかたチャイルド/2016. 1/¥1300/(596)
	初級	『カラスウリ』(しぜんといっしょ)/藤丸 篤夫・しゃしん, 有沢 重雄・ぶん/そうえん社/2016. 3/¥1200/(479. 98)
	中級	『干したから…』(ふしぎびっくり写真えほん)/森枝 卓士・写真・文/フレーベル館/2016. 3/¥1400/(絵本)
★	初級	『路線バスしゅっぱつ!』(ランドセルブックス)/鎌田 歩・作/福音館書店/2016. 4/¥1200/(絵本)
	初級	『やさいの花』(ふしぎいっぱい写真絵本)/埴 沙萌・写真, 嶋田 泰子・文/ポプラ社/2016. 5/¥1500/(626)
★	中級	『300年まえから伝わるとびきりおいしいデザート』/エミリー・ジェンキンス・文, ソフィー・ブラッコール・絵, 横山 和江・訳/あすなろ書房/2016. 5/¥1600/(絵本)
★	初級	『みちくさしようよ!』(ほるぷ創作絵本)/はた こうしろう・作, 奥山 英治・作, はた こうしろう・絵/ほるぷ出版/2016. 6/¥1300/(絵本)
★	中級	『お月さまのこよみ絵本 旧暦で行事をたのしむ』/千葉 望・文, 阿部 伸二・絵/理論社/2016. 8/¥1400/(絵本)

★	幼児	『かげはどこ』(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)/木坂 涼・ぶん, 辻 恵子・え/福音館書店/2016. 9/¥900/(絵本)
★	中級	『おばあちゃんとバスにのって』/マット・デ・ラ・ペーニャ・作, クリスチャン・ロビンソン・絵, 石津 ちひろ・訳/鈴木出版/2016. 9/¥1500/(絵本)
★	初級	『どででんかぼちゃ』(どーんとやさい)/いわさ ゆうこ・さく/童心社/2016. 10/¥1100/(絵本)
	中級	『ハーブをたのしむ絵本』/大野 八生・作/あすなろ書房/2016. 10/¥1400/(617. 6)
★	幼児	『おとうさんは、いま』(こどものとも絵本)/湯本 香樹実・ぶん, ささめや ゆき・え/福音館書店/2016. 11/¥900/(絵本)
	初級	『まよなかのせんろ』/鎌田 歩・著/アリス館/2016. 11/¥1400/(絵本)
	初級	『はじめてのオーケストラ』/佐渡 裕・原作, はた こうしろう・絵/小学館/2016. 11/¥1500/(絵本)
	中級	『大坂城 絵で見る日本の城づくり』(講談社の創作絵本)/青山 邦彦・作, 北川 央・監修/講談社/2016. 11/¥1500/(絵本)
	中級	『江戸のお店屋さん その3』/藤川 智子・作/ほるぷ出版/2016. 12/¥1400/(672. 1)
	中級	『かぶきわらし』/庄司 三智子文・絵/出版ワークス/2016. 12/¥1600/(絵本)

■起きている変化を見つめ、事実をつみ重ねていく

★	中級	『北をめざして 動物たちの大旅行』/ニック・ドーソン・さく, パトリック・ベンソン・え, いだてつじ・やく/福音館書店/2016. 1/¥1600/(絵本)
	中級	『ホッキョクグマくん、だいじょうぶ? 北極の氷はなぜとける』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ロバート・E.ウエルズ・さく, せな あいこ・やく/評論社/2016. 1/¥1400/(絵本)
	中級	『ペンギンかぞくとおそろしい山』/藤原 幸一・著/アリス館/2016. 10/¥1400/(絵本)

■生活・交流で広がる理解と感性

★	初級	『みんながらばー! はしれはまかぜ』/村中 李衣・文, しろぺこり・絵/新日本出版社/2016. 1/¥1500/(絵本)
	初級	『かくれんぼ 朝鮮半島のわらべうた』(日本傑作絵本シリーズ)/池 貴巳子・文・絵/福音館書店/2016. 3/¥1200/(絵本)
	初級	『ハワイ島のボンダンス』/いわね あい・ぶん, おおとも やすお・え/福音館書店/2016. 6/¥1400/(絵本)
★	中級	『ラマダンのお月さま』(エルくらぶ)/ナイマ・B.ロバート・文, シーリーン・アドル・絵, 前田 君江・訳/解放出版社/2016. 8/¥2000/(絵本)

■生き方を知る

★	上級	『がらくた学級の奇跡』(わくわく世界の絵本)/パトリシア・ポラッコ・作, 入江 真佐子・訳/小峰書店/2016. 6/¥1500/(絵本)
★	中級	『サリバン先生とヘレン ふたりの奇跡の4か月』/デボラ・ホプキンソン・文, ラウル・コローン・絵, こだま ともこ・訳/光村教育図書/2016. 8/¥1500/(絵本)
★	中級	『にぎやかなえのぐばこ カンディンスキーのうたう色たち』/バーブ・ローゼンストック・文, メアリー・グランプレ・絵, なかがわ ちひろ・訳/ほるぷ出版/2016. 9/¥1500/(絵本)
	上級	『ゴードン・パークス』/キャロル・ポストン・ウェザーフォード・文, ジェイミー・クリストフ・絵, 越前敏弥・訳/光村教育図書/2016. 9/¥1400/(絵本)
★	初級	『わたしのそばでできている』/リサ・パップ・作, 菊田 まりこ・訳/WAVE出版/2016. 10/¥1400/(絵本)
	中級	『耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ』/ナンシー・チャーニン・文, ジェズ・ツヤ・絵, 斉藤 洋・訳/光村教育図書/2016. 10/¥1400/(絵本)
★	上級	『キルトでつづるものがたり 奴隷ハリエツト・パワーズの心の旅』/バーバラ・ハーカート・文, ヴァネッサ・ブラントリー=ニュートン・絵, 杉田 七重・訳/さ・え・ら書房/2016. 10/¥1500/(絵本)

■絵本が読み物や美術作品とつないで

★	中級	『プーさんとであった日 世界でいちばんゆうめいなクマのほんとうにあったお話』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/リンジー・マティック・ぶん, ソフィー・ブラッコール・え, 山口 文生・やく/評論社/2016. 8/¥1500/(絵本)
	中級	『シャクルトンの大漂流』/ウィリアム・グリル・作, 千葉 茂樹・訳/岩波書店/2016. 10/¥2000/(絵本)
	中級	『あるアーティストと悪がきだったぼくのこと アルル時代のファン・ゴッホの物語』(RIKUYOSHA Children & YA Books)/シェーン・ピーコック・さく, ソフィ・カーソン・え, おびただす・やく/六耀社/2016. 8/¥1500/(絵本)

■東日本大震災を忘れない

	初級	『のっぽのスイブル155』/こもり まこと・[作]/偕成社/2016. 1/¥1400/(絵本)
★	中級	『かえるふくしま』/矢内 靖史・写真・文/ポプラ社/2016. 2/¥1500/(絵本)
★	中級	『あしたがすき 釜石「こすもす公園」きぼうの壁画ものがたり』(ポプラ社の絵本)/指田 和・文, 阿部 恭子・絵/ポプラ社/2016. 2/¥1300/(絵本)

■戦後70年をつなげて

★	上級	『父さんたちが生きた日々』(日・中・韓平和絵本)/岑 龍・作, 中 由美子・訳/童心社/2016. 3/¥2500/(絵本)
★	初級	『とうきび』(日・中・韓平和絵本)/クォン ジョンセン・詩, キム ファンヨン・絵, おおたけ きよみ・訳/童心社/2016. 6/¥2200/(絵本)

	中級	『つきよのたけとんぼ』/梅田 俊作・作/新日本出版社/2016. 7/¥1500/(絵本)
--	----	---

■生きているものへの思い育て

	初級	『おしりポケット ウオンバットのあかちゃん』(そうえん社写真のえほん)/ゆうき えつこ・文, 福田幸広・写真/そうえん社/2016. 2/¥1400/(絵本)
★	初級	『ちっちゃいさん』/イソール・作, 宇野 和美・訳/講談社/2016. 4/¥1500/(絵本)
★	初級	『あかちゃんの木』(評論社の児童図書館・絵本の部屋)/ソフィー・ブラッコール・さく, やまぐち ふみお・やく/評論社/2016. 11/¥1300/(絵本)
	初級	『むしこぶみつけた』(ふしぎいっぱい写真絵本)/新開 孝・写真・文/ポプラ社/2016. 5/¥1500/(486. 1)
	初級	『ウミガメものがたり』/鈴木 まもる・作・絵/童心社/2016. 5/¥1500/(絵本)
★	初級	『ソーニヤのめんどり』/フィービー・ウォール・作, なかがわ ちひろ・訳/くもん出版/2016. 6/¥1400/(絵本)
★	初級	『アマミホシゾラフグ 海のミステリーサークルのなぞ』(ほるぷ水族館えほん)/江口 絵理・ぶん, 大方 洋二・しゃしん, 友永 たろ・え/ほるぷ出版/2016. 7/¥1300/(絵本)
★	初級	『シロナガスクジラ』/ジェニ・デズモンド・さく, 福本 由紀子・やく/BL出版/2016. 7/¥1600/(絵本)

公益財団法人図書館振興財団

第17回 子どもの本 この1年を振り返って 2016年 講演録

■絵本の部■

講演：日本子どもの本研究会 絵本研究部 鈴木 佳代子

鈴木佳代子です。日本子どもの本研究会・絵本研究部会と、図書館振興財団の児童書選書委員会に所属しています。長く東京・荒川区の公立幼稚園で教員をつとめ、毎日のように3歳から5歳の子どもたちに読み聞かせをしていました。退職後は小学校の図書館のお手伝いをしており、小学生を対象に読み聞かせなど行なっています。

■2016年の絵本の動向

毎年千点を超える絵本が出版されています。図書カタログ等にはその多くが、「幼児から」とされていますが、育ちの道すじや経験の差などに配慮しつつ、この図書リストでは、読者の対象を「幼児」「初級」「中級」「上級」と表示しました。

絵本はもちろん大人が読んでも楽しいものですが、子どもから大人まで幅広く楽しめるお話が少なくなっているように思います。一方で、伝記や自然科学、環境などをテーマに、絵や写真などを取り込んで分かりやすく伝わる絵本や、事実と創作を融合させて、事実としての確かさと同時に、それを物語として楽しむ絵本など、内容も多様で対象が幅広くなりました。その分、作者の意図が子どもには理解しにくいのでは、むしろ大人向きではと思われる本も増えているように思います。

昨年「子どもの本」で登壇した際、読み物が担ってきた領域に絵本が進出してきているとお話ししました。例えば伝記絵本など、ここ4～5年すっかり定着してきています。「大人向き」の絵本が増えていることとも関連しますが、長い文章を読んで想像する力を持たない大人たちが増えていて、子どもたちに向けた絵本も「手頃」「きれい」といった、単純で分かりやすいものが多くなってきているという指摘を耳にします。そのような傾向が広がっていくとしたら、私たちの子どもへのアプローチは一層、子どもの育ちの道すじに沿う選書や、子どもたちへの丁寧な手渡し方が大事だと思います。

今、申し上げた「分かりやすい」本をあまりに多く目にすると、たまに自身の価値観や判断が、時代にそぐわないのかという思いに捉われる時もありますが、「子どもに手渡せる本」ということを考えると、やはり子育ての道すじに沿うことは重要だと思います。

特に私は幼児と接してきましたので、幼児期とは「見えない力」…基礎となる力を育てる時期だと考えています。この頃の子どもたちは、「文字期」以前の、耳から入る言葉や人との会話の中で、相手の反応を見て感じながら、言葉の使い方や人との関わり方を身につけ、経験を積み重ねていきます。もし、幼児期でその経験を逃してしまったら、少し大きくなってからでもそこに戻らないと、次の力は育たないように思います。

文章を楽しむ力が育つよう、ストーリーの面白さで物語世界へ誘い込み、楽しませてくれる作

品を子どもたちに届けたい、この思いを土台に「広がる絵本の世界」というテーマで紹介したいと思います。

■物語や昔話を楽しんで

まず最初は、初級以上の少し大きな子どもたちに向けた、ワクワクドキドキ展開を楽しむ絵本です。新装版や、訳者を変えて復刊されたアフリカの昔話を2つ紹介したいと思います。

『くいしんぼうシマウマ』。昔、世界中の動物たちは、みんなうすぼけた情けない色をしていました。しかし、ある日見つけた洞穴は毛皮でいっぱい。動物たちはそれぞれ好きな毛皮を身に着けていきました。ところが、くいしんぼうシマウマだけは途中でおいしいものを見つけては寄り道。洞穴に着いた時に残っていたのは黒い布が少しだけでした。そこでシマウマは…。サバンナシマウマはイネ科やカヤツリグサ科のかたい草を食べ、1日60～80%の時間を食べるために使うと「かいせつ」にあります。動物学者である訳者は、そんな様子シマウマを見て、ナイロビ生まれの作者が「くいしんぼう」と表現したのではないかと書いています。

2冊目は『どうしてカは耳のそばでぶんぶんいうの?』です。

カがぶんぶんと大げさな事を言ったことが原因で、動物たちの行動が巡りに巡って、あかんぼうフクロウが1羽死んでしまいます。お日さまを起こす役目のかあさんフクロウは悲しくて鳴けなくなり、森は朝になりません。困った王様ライオンは動物会議を開くことにしました。個性的な絵が西アフリカのお話を伝えます。初版は1976年。

次に紹介するのはアイヌの昔話、『ひまなこなべ』です。

アイヌは自然や物すべてに魂が宿ると考えます。命も物も粗末に扱わないというメッセージを込め、クマを仕留めた時に、その魂を神の国に送るための踊りを踊る若者がこの絵本には登場します。選書委員会では、作者のどいさんの絵が可愛すぎないかとの意見もありましたが、どいさんは「いつかアイヌのお話を描いてみたい」と以前から温めていたそうです(カバー折り返しより)。道具にも魂があるということを描いていて、2016年に刊行された絵本の中では、個人的にはこれが一番好きです。

『なつめやしのおむこさん』。

オマーンで暮らすマンスール。山のふもとには一本のヤシの木が生えていましたが、ちっとも実がなりません。マンスールはお母さんに尋ねます。「どうして、あのなつめやしの木に、実がならないの？」するとお母さんは「あの木はメスの木で、ひとりぼっちだからよ。もし、オスの木がちかくにあれば、オスのかふんがかぜにのってメスの花とむすばれて、たくさんのあまい実をつけることができるの。おとうさんとおかあさんがむすばれて、おまえたちがうまれたようにね」そこで、マンスールは「それなら、あの木に、おむこさんがくればいいんだね！」と探しに出かけます。毎年、世界中の子どもたちを主人公に描いている、市川里美さんの絵本です。

『パン屋のイーストン』。森の中のふしぎなパン屋の主人はイーストン。パン焼きかまどに

は、アチネが待ち構え、粉としお、わき水からとってきたきれいな水と、とっておきの魔法をかけて、おいしいパンをつくります。夏の終わりのその時に雨まねきが連れてくる「つむじ雨」がやってきました。つむじ雨がやってくると、森はあつという間に水浸し…けれど、跡にはおいしい木の実にどっさり実ります。自然の恵みをお話の柱に据えた作者の想いを、佐竹美保さんの絵が表現します。裏表紙のパンのレシピは、パン屋に働く巢山ひろみさんによるものです。個性的な登場人物がとても魅力的です。

『カイとカイサのぼうけん』。カイとカイサは、枯れ木と傘をドラゴンに見立てて遊んでいました。ある日、いたずらトムテの魔法で2人はかれきドラゴンに乗って飛び立ちます。ドラゴンは背中の人2人に「さあ、どこに いきましょう」。カイは大きな声で言います。「おはなしの く にへ、いこう!」。海の向こうのおはなしのく にへ、まっすぐ飛んでいきました。1923年のベスコフの作品。読み応えのある文章と美しい絵に物語を楽しみましょう。

『ぼくはイスです』と『かぜ』は40年近くを経ての復刊です。共に亜紀書房から出版されました。

『ぼくはイスです』では、いつもみんなに腰かけられるイスが、「ぼくも何かに腰かけたい」と机に腰かけてみたり、石に腰かけてみたり。イスの冒険が始まります。間に入る8コマ漫画がスピード感を増す、長新太さんのユーモア絵本。南伸坊さんが装丁を担当しています。

いろいろな場で、いろいろなタイプの風と出会う『かぜ』も同様に、自分の膝に置いて読むのにちょうど良いサイズの本で、小学校1～2年生くらいの子どものための読み物につなげられると良いなと思います。

『一日だけうさぎ』。ある日、目を覚ますと私はうさぎになっていた。今日は年に一度のうさぎの日。学校へ行くと、朝礼で校長先生は「にんげんの ときには わからないことを いろいろ かんじてみてください」と話します。このお話は、2015年度おはなしエンジェル子ども創作コンクールで最優秀賞を受賞した作品に加筆修正し絵本となった、2006年東京生まれの少女の作品です。こんな絵本の作り方もあるのだと思いました。

『わたし、お月さま』は、同世代を生きる才能あふれる作家たちが織りなすファンタジーです。いつも絵から描く刀根さんが、青山さんによるいくつかのお話の中からこの題材を選び、それに絵をつけていったそうです。図書リストでは対象を「初級」としていますが、お月さまと宇宙飛行士の恋物語のような雰囲気も感じられます。作者たちの個性が強く、特に大人たちがその美しさと雰囲気を楽しめそうです。おませな女の子にも楽しめるかもしれません。

■幼い子どもたちに

『ぞうさん』。まどさんの「ぞうさん」の詩に、にしまきかやこさんが絵を描いています。赤い表紙で、子どもたちがすぐに手に取ってくれそう。読んだ後のこどもたちの「もう1回」という声が聞こえてきそうです。にしまきさんも、絵本デビュー50周年だそうです。『わたしのワンピース』(こぐま社、1969年)をはじめ、たくさん楽しい絵本を描いてくださって

ますね。

『ねこどけい』は「こどものとも絵本」ハードカバーの絵本です。ことちゃんの家の、ねこのねねこは鳩時計の鳩と遊びたくて、鳩が出てくるのを待ち構え、跳びかかって時計を壊してしまいました。そこで、ことちゃんは時計屋さんに修理をお願いします。木でできた鳩はケガをただけで、病気ではありませんでした。はとどけいが好きな時計屋さんは、ねこも大好きでした。そして、ねねこにあるものを作ってくれます。お話の最後でタイトルの意味が分かります。

『ちょう いきいきいきもの』。昆虫写真家 今森光彦さん得意の切り絵が、幼児にもわかるお話仕立ての科学絵本に変身しました。出版社によれば、幼児にもわかる自然科学の本とのことですが、本当に小さな子どもたちにとっては、大人の意図とは関係なく楽しめるのではないかと思います。しかし、絵本を体験した後に実物を見たり、その後でまたこの本に戻ってきたりすることで「見えない力」が育っていくのではと思います。図書館のどこに置くかで、手に取られにくくなる可能性もあるので配慮が必要かもしれません。

『すずめくんどこでごはんたべるの?』。すずめくんは、動物園でライオンが寝ている隙にお肉を食べたり、ぞうのところで砂浴びしたり。絵の構図も表情も豊かで、すずめくんと一緒に動物園を楽しむことができます。たしろちさとさんの絵もぴったり！「マルシャークの詩って、どんな詩かしら」と興味が湧きます。1954年発行「岩波のこどもの本」の『どうぶつのこどもたち』は、16編の動物を題材にした詩で構成された本ですが、この中に見開き2ページで「どうぶつえんのすずめ」が登場します。読み比べても楽しむことができます。

『ぞうきばやしのすもうたいかい』。大きな虫と小さな虫など、虫たちの組み合わせにも工夫があり、切り株の土俵に上った2匹の取り組みにワクワク。今、相撲ブームでもありますね。雨や寒い冬の季節でもこんな本を読んだ後、みんなでお相撲ごっこなどできたら楽しいなと思います。

『まどべにならんだ五つのおもちゃ』。窓辺で何かを待っている5つのおもちゃ。「よるの すきな ふくろうは、つきが でのを まっています。 かさを さした ぶたの おじょうさんは、あめが ふるのを まっています。」動きは少ないですが、子どもの目線を感じるくらいにゆっくり読むと、5つのおもちゃの絵に5通りの言葉が詩のよう添えられて心地よく、その言葉が伝わってきます。5つという数は4歳から6歳までの幼児が自分の事として身近に感じられるのではと思います。

『ふくろうおやこおやここうもり』。1本の枝に上下にとまった、ふくろうとこうもりの家族。文字のない絵本ですが、彼らの表情や行動にページをめくりながら会話が弾むと思います。本を逆さにしても成立する面白さ。初めは、お互いを迷惑そうに見ているふくろうとこうもりのお母さんたちですが、アクシデントが起こると助け合ったりして、とても微笑ましいです。

『だるまちゃんとおうちちゃん』。かこさんの「だるまちゃん」シリーズ8作目。

このお話は、福音館書店 月刊「こどものとも」2014年7月号に掲載されました。7月号は通巻700号の記念号であったそうです。今回それがハードカバーの絵本として刊行されました。だるまちゃんとおうちちゃんがすもうをしたり、にらめっこしたり。この本の中で「黄檗山萬福寺(おうぼくざんまんぷくじ)」というお寺が出てきますが、それは実際にかこさん自身が戦中戦後関わったお寺で、かこさんの戦争に対する考えや平和への思いが作品に込められています。

■自然・生活などを知ることで豊かさを

今は色々な生活習慣や生活様式が変わってきていますが、そんな中、みんなで読む絵本を通じて、昔は「ああった」「こうだった」と話ができることが1つのポイントかと思います。

『築地市場 絵で見る魚市場の一日』。現在、移転問題で注目を集める築地市場の、夜11時頃から朝7時頃までの活気あふれる様子が、モリナガヨウさんならではの表現で描かれています。モリナガヨウさん自身も、この本の各所に登場しています。仕事の種類やその流れ、もう少し大きい子どもたちには流通など、それぞれ子どもたちの興味に引き寄せて楽しめたらいいなと思います。カバーを広げてみると圧巻です。

『くだものいっぱい！おいしいジャム』。「しぜんにタッチ！」シリーズの最新刊で、実際にジャムを作る様子が載っています。生の果物を煮て砂糖を加えることで、保存食になるということが分かります。一番身近ないちごジャムで作り方を示していて、最後の方では「応用編」としてかぼちゃやトマト、牛乳ジャムの作り方などが掲載されています。実際に作ることができたら食生活が豊かになると思いました。

続いて、「ランドセルブックス のりものとはたらく人」から『路線バスしゅっぱつ！』。つばさくん、えりちゃん、れいくん、すずちゃんの4人組は、日曜日に公園に行く計画を立てました。自分たちだけでバスに乗るのは4人とも初めて。2人ずつ乗るバス停が違うので、そのドキドキ感を楽しみつつ、路線バスの構造や仕組みなどがよく分かります。皆さんもバスに乗る時、乗りやすいようバスの乗降口が傾く時の「ぷしゅー」という音を聞いているのではないのでしょうか。

次は、全く雰囲気の違う絵本です。『300年まえから伝わりとびきりおいしいデザート』。西欧文明最古のデザート「フルーツフル」を作る、4つの時代の4つの家族の4つの物語です。「フルーツフル」とは、ブラックベリーを潰して泡立てた生クリームと合わせ、冷やして食べるお菓子ですが、時代によって使う道具や、家族のあり方などの変化を描いています。作る・食べるは誰もが楽しくなるテーマ。作者のこだわりで大きな物語に仕上げられています。色々な切り口で紹介できる絵本です。

『みちくさしようよ！』。お兄ちゃんと弟のあそびシリーズ4作目。いつもの帰り道なのに違って見えるってどうして？ なかなか現実には許されない、みちくさ。この子どもたちはいつも

の通学路を歩いています、**「見方を変えると楽しいことがいっぱい見つかるよ」**ということがこの絵本を通じて分かります。

『お月さまのこよみ絵本』もとても丁寧に描かれた、綺麗な絵本です。行事がお月さまの満ち欠けによる暦に基づいていたことを伝えます。現在は太陽暦に基づいていますが、昔は新月がお正月でした。季節と行事の関わりが、旧暦では特によく分かります。大人でも「なるほど」と感じたことを折々、子どもたちにも伝えていければと思う本です。

『かげはどこ』。切り絵作家の辻恵子さんが、「ぼく」と「ぼくのかげ」をシンプルな線で表現しています。「ぼくは ここ かげも ここ ぼくと かげは いつも いっしょ」「はしる ぼく はしる かげ かげと ぼくは いつも いっしょ ほらね」。リフレインを使っでの表現で、幼児から大人まで心地よく、分かりやすくテーマが伝わります。

次は、『おばあちゃんとバスにのって』。日曜日の朝、教会から出てきたジョイとおばあちゃんは、バスに乗ります。車じゃなくて、どうしてバスなの？ バスを降りた後も、落書きだらけの窓や壊れたドアを見て「このへんは いつも きたなくて、ぼく いやだなあ」。そんなジョイにおばあちゃんは、自然や人々、便利な道具、社会の在り様など見方を変えてごらんと促します。絵本にはバスに乗っている多様な人々が描かれ、言葉ではなく、絵がその様子を何気なく伝えてくれます。「おばあちゃんと孫」という3世代を描く表現は、最近増えていますね。

『どででんかぼちゃ』。最近、食卓やスーパーでは、丸ごとの野菜を見たり、手にしたりということは少ないかもしれませんが、この本のカボチャは「はっぱも ふえるよ つぎ つぎにしゅるしゅる どんどん つる どんどん だいちを つかまえ どこまでも しゅるしゅる どんどん つる どんどん」。短い言葉や、オノマトペの「どででん」で、カボチャらしさがしっかり伝わってきます。『きゃっきゃキャベツ』（2012年刊）から始まったシリーズ6冊目。

次も月刊誌「こどものとも」633号(福音館書店)から絵本になった『おとうさんは、いま』。本を読んでもらうことを約束したのに、お父さんは仕事で遅くなる。会社にいるお父さん、電車に乗っているお父さん、駅から家に向かうお父さん…。帰りを待ちながら、窓辺に立った小さな子が、そんなお父さんの姿を想像しているのでしょうか。見えない状況を就学前の幼児が想像するという事は、すごい成長だと思います。

■起きている変化を見つめ、事実を積み重ねていく

今、地球上で色々なことが起きています。それらも事実として受け止めなくてははいけません。絵本でもそれを伝えていきたいと思っています。絵本を読んで難しいことを語ると面白くなくなってしまうけれど、情報として子どもたちに提示していくことはできると思います。

『北をめざして』。北極に一年中暮らす生きものは多くありません。しかし、北をめざし、太陽の沈まない短い夏を北極で過ごす習性を持つ生き物は180種類を超えるそうです(巻末「命を育む北極と環境問題」より)。色々な動物たちが、北極の恵みの夏に向かって移動していき

ます。選書委員会では、「科学読み物としては少し弱いのでは」という指摘もありましたが、「絵本」ならではの役割の中で、状況を伝えたり雰囲気伝えるということが出来る本だと思います。巻末では、訳者が環境問題について書いています。問題意識を子どもたちに届けるということは工夫も必要です。ブックトークの1冊に使ってみてはいかがでしょうか。

■生活・交流で広がる理解と感性

現在、日本でも様々な国の人々が暮らし、便利になった生活も進んでいます。

『**みんながらばー！はしれはまかぜ**』。日本では鉄道の電化が進んで、ディーゼルエンジンの電車は廃棄になるのだそうです。廃棄の危機にあったディーゼルエンジンの特急「はまかぜ」は、「みんながらばー」（「こんにちは」という意味）とミャンマーで第二の人生を走ります。村中李衣さんの文としろぺこりさんの勢いのある絵で、電車が動いている様子がよく伝わります。

『**ラマダンのお月さま**』。イスラム圏のラマダンは、日本でもよく知られるようになりました。実際にはどのようなことをするのか、昼は食事をしないのか、どうやって始まるのか。イスラム教徒の一家を通して分かりやすく、その生活様式が伝わります。新月から1か月のラマダン、断食の空腹感を社会全体が共有し、昼はお祈りや、困っている人達の為に活動を行ったり、夜は皆で集まって賑やかに食事をしたり、同じ思いで1か月暮らす中で、1つにまとまるイスラム世界の様子を知るような気がしました。

■生き方を知る

続いて、伝記絵本「生き方を知る」というテーマで紹介します。

『**がらくた学級の奇跡**』。新しい学校で迎える新学期、誰も知らない学校で、普通に学校生活を送れると期待していたトリシャを迎えたのは「がらくた学級」でした。トリシャはがっかりしますが、そこには様々な子どもたちがいて、皆で力を合わせて課題に取り組んだり、子どもたちの家族も巻き込みながら、子どもたちが変わっていく様子が描かれています。内容が重たく子どもが手に取りにくい本かもしれませんが、子どもが育っていく上で大事な場面が沢山あるように思います。子どもにも受け止めてもらいたいお話です。

『**サリバン先生とヘレン**』では、サリバン先生とヘレンの出逢いから4ヶ月に焦点を当てて描かれています。裏表紙には写真や手紙も載っていて、互いにとってかけがえのない出会いであったことがよく分かります。ヘレン・ケラーに関してはたくさん読み物がありますが、その1冊に加えて紹介すると良い資料になるのではないのでしょうか。

『**にぎやかなえのぐばこ**』。色から音楽がきこえる。形のないものを絵にすることに挑戦した画家、カンディンスキーの子ども時代を、伝記を元に想像して描かれた物語です。伝記と絵本、そして創作も織り交ぜられた物語は絵本だけでなく、他ジャンルでも最近よく見受けられるように思います。訳者があとがきで、「どんな環境にあっても、人は手さぐりで、みえない未来を切りひらいていくものなのでしょう。～中略～日本にも、ワーシャ・カンディンスキーの絵がたくさんありますから、ぜひ、ごらんになってください。」と綴っています。

『わたしのそばできいていて』。マディは字を読むのが大嫌い。字がたくさんあるから、本も雑誌も嫌い。字を読めないと選べないから、アイスクリーム屋さんのメニューだって嫌い。そんなマディは、ある土曜日、母さんに連れて行ってもらった図書館の聴導犬と出会い、少しずつ本を読んであげる喜びを感じるようになります。

『キルトでつづるものがたり』。1837年、アフリカ系アメリカ人の奴隷の子として生まれたハリエットさん。当時、奴隷たちによる読み書きは禁じられていましたが、女性たちは夜になると、麻袋や着古した衣類を持って集まり、故郷アフリカを思い出しながら、動物たちや故郷に伝わる伝説をキルトに刺していきました。ハリエットさんは教会に通っていたので、教会で聞いた話をキルトに綴っていったそうです。そのキルトは現在、アメリカ黒人による民俗芸術の貴重な例として美術館に残されていると語っています。

■絵本が読み物や美術作品とつないで

冒頭で「読み物の分野に絵本が進出」とお話ししましたが、絵本での出会いが読み物に繋がれば良いという思いから1冊紹介します。

『プーさんとであった日』。クマのプーさんに名前を貸すことになったウィニーの物語。1914年にカナダで獣医のハリーに出会うところから始まります。ハリーはウィニーと一緒に戦地に向かい、ウィニーは連隊の一員となって過ごします。しかし、やがて戦況が悪化しハリーはウィニーをロンドンの動物園に預けることにします。そこで動物園にやってきたミルン親子に出会ったということです。ぜひ、「プーさん」と一緒にこの本を紹介していただきたいと思います。

■東日本大震災を忘れない

東日本大震災。もう6年経ちますが、毎年少しずつ本が出ています。ぜひ忘れないよう、そして支援が続くようにという思いと共に紹介したいのは、『かえるふくしま』。

自然環境に恵まれた福島は「カエル王国」だった。東日本大震災以降、復興を信じ、私たちの願いは皆がふるさとに「かえる」こと。福島が以前の姿によみ「がえる」こと。「福島を変えること」という思いの元、福島の新聞社の報道カメラマン矢内さんが撮りためた写真を掲載。現実を受け入れ、たくましく生きようとする人々の心を『かえるふくしま』が伝えます。

『あしたがすき』。東日本大震災で家を失った方々のために、公園や空き地に沢山の仮設住宅が建てられ、子どもたちの遊び場がなくなってしまいました。そこで釜石の藤井さん夫妻は、子どもに思いきり遊ばせたいと、畑に小さな公園を作りました。「こすもす公園」です。そこで遊ぶサキちゃんは、隣接する工場の黒い壁を見て、津波を思い出してしまいます。心の回復は難しいけれど、その壁を希望の壁画にしようと、多くの人と共に絵を描き始めます。巻末には写真や説明も掲載されています。

■戦後70年をつなげて

そして忘れてはいけない、いつまでも「戦後」にしておきたいという思いから、「日・中・韓

平和絵本シリーズ」より久しぶりに刊行された2冊を紹介します。

『父さんたちが生きた日々』。苦学の末に人類学を学び、東京に留学した父さんは山本さんという親友を得ますが、戦況は厳しさを増し国へ帰ることになりました。それぞれの戦禍に翻弄された父さんたちの時代を描いています。

もう1冊は、韓国から『とうきび』です。

「にいちゃんは あな ほって ぼくは とうきびのたねを ぼとり かあさんは つち かぶせ すこし のびたら こやしをやって もっと のびたら しょんべんかけて」。この詩はクオン・ジョンセンさんが小学生の時に書いた詩だそうです(巻末より)。ジョンセンさんは1937年東京生まれ。終戦直後、韓国に戻られたそうです。大事に育てたとうきびの収穫を目前に戦火から逃れ、畑をそのまま残していかなければならなかった無念さ。表紙は食べられなかったとうきびへの思いが込められています。

■生きているものへの思い育てて

最後に「生きているものへの思い育てて」というテーマで、まずは『ちっちゃいさん』。作者イソールさん独特の表現で、赤ちゃんの誕生や身体のしくみを小さな子どもにも分かるよう表現しています。「赤ちゃん」というものをすごくリアルに描いていて、少人数での読み聞かせなど、色々な話を織り込みながら、様々な場面で使えるのではないかと思います。

『あかちゃんの木』。この本では、男の子が「あかちゃんがどこから生まれるのか」ということを様々な人に尋ねていきます。作者はソフィー・ブラッコールさん。先程紹介した『プーさんとであった日』や『300年まえから伝わるとびきりおいしいデザート』などでも絵を描かれている方です。『ちっちゃいさん』『あかちゃんの木』の2冊は、場面に応じて子どもたちに紹介できる本ではないでしょうか。

『ソーニャのめんどり』。ある日、お父さんはソーニャにふわふわのひよこを3羽手渡して「ひとりで せわを してみるかい？」と言います。大事に育てるソーニャ。ある寒い夜のことでした。鳥小屋が騒がしいので行ってみると、1羽がいません。きつねがさらっていったようです。お父さんはソーニャを抱いて静かに話します。生きるものを世話することの楽しさと厳しさが伝わってきます。

続いて『アマミホシゾラフグ』。海の底に2mもある大きなサークル。だれが作ったの？ なぜこんなサークルを？ 本当に不思議なことがあるものです。あとは皆さん、ぜひ読んでみてください。

最後に『シロナガスクジラ』。哺乳類の中で最も大きいシロナガスクジラ。口の中には人が50人も入れるのだそうです。でも安心して。シロナガスクジラは人を食べません。シロナガスクジラの体長や食べるもの、大きな口に続くすごく小さな食道の入口など、様々な事に触れています。フィクションとノンフィクションの「ハイブリッド」とも言うべき本で、事実に物語

が添えられ、大きさなど様々な対比がとても効果的に示されています。幅広い年齢層に読み聞かせをしましたが、とても反応が良い絵本でした。

読み聞かせをする際には、大人の好みもあるかと思いますが、何をテーマに、子どもたちに何を願って読むかは大事な部分だと思いますので、様々な絵本を手に取り紹介して行ってほしいと思います。

(於：株式会社図書館流通センター 2017年3月6日・7日)

※本図書リストおよび講演録の無断転用・複製は固くお断りいたします。